

公益社団法人日本騒音制御工学会誌「騒音制御」執筆要領
(論文・技術報告・会員の声・新技術紹介の執筆用)

1. 一般事項

1.1 原稿の様式

- (1) 原稿は、A4判の用紙を縦置きとし、ワードプロセッサ等を用いて作成する。
- (2) 文章は横書きとし、和文の場合、一行約23字で約46行を1頁とし、英文の場合、一行約65ストロークで約34行を1頁とする。
- (3) 用紙の余白は、上下左右に十分に設ける。
- (4) 原稿には通し頁を記載する。

1.2 和文の用語

- (1) 文章は、現代仮名遣いにより「である」体で書く。
- (2) 漢字はなるべく常用漢字とし、数字はアラビア数字とする。
- (3) 学術用語は、文部科学省学術用語集またはJIS用語に従う。

2. 提出物と書き方

2.1 投稿時の提出物

投稿者は投稿する区分に応じ、表1に示す提出物を提出する。提出物から「投稿票」を除いた物を「原稿」とする。会誌編集部会は出版社に依頼し版下を作成する。

表1 投稿時の提出物

区分	投稿票	和文要旨	英文要旨	本文	図・写真・表
論文	○	○	○	○	○
技術報告	○	○	○	○	○
会員の声	○			○	○
新技術紹介	○			○	○

2.2 投稿票

- (1) 投稿票（「論文・技術報告執筆用テンプレート」の末尾に雛形がある）に必要事項を記入する。
- (2) 題名はできるだけ簡素にし、和文、英文とも記入する。
- (3) 本文の内容に適したキーワードを和文、英文でそれぞれ5個以内記入する。
- (4) 著者名は、姓名を和文とローマ字つづりで記入する。

2.3 和文要旨

論文、技術報告では、本文の内容を簡潔にまとめ、300字以内に要約する。この場合、本文中の図表を引用しない。書式は任意とするが、「論文・技術報告執筆用テンプレート」を使う場合は記述欄がある。

2.4 英文要旨

論文、技術報告では、本文の内容を英文200語以内で簡潔にまとめる。この場合、本文中の図表を引用しない。書式は任意とするが、「論文・技術報告執筆用テンプレート」を使う場合は記述欄がある。

2.5 本文

(1) 文章

- 1) 論文、技術報告では、章の見出しに通し番号をつける。

例

章 1., 2., 3.,
節 1.1, 1.2, 1.3,

項 (1), (2), (3),
小見出し a., b., c.,
箇条書き 1), 2), 3),

(注) ①, ②, ③及び I, II, IIIは使用しない。

2) 脚注は、なるべく避ける。参考文献がある場合には、本文の中に参考文献の引用番号を記載する。引用番号は、下記の例に従って、本文の文字の右肩にアラビア数字で記入する。引用番号は、後述 (6)の参考文献の項による。

例：「橋ら¹⁾の報告によれば、大型車の定常騒音は、・・・」

(2) 数式

1) 数式を文章の中に入れる場合には、 $(a+b)/(c+d)$, $\exp(-t/a)$ などのように書く。別行とする場合に限り、

$$\frac{a+b}{c+d} \quad e^{-\frac{t}{a}}$$

などのように書いてもよい。

2) 式を別行とするときには、式一行を原稿では 2 行とする。長い式は、一行に納まる長さに区切って行を改める。

3) 印刷の都合上、二重添字、e の肩にのる字の添字、一般に使用されていない文字記号などは避ける。その他については、(8)の活字の項を参照。

2.6 図・写真・表

(1) 図・写真

1) 図は、1 つずつ別の用紙 (A4 判) に描く。

2) 図番号は、原稿全体を通しての番号とし、図-1, 図-2 (英文では Figure 1, Figure 2) のように書く。また、図番号、表題、説明文は、その図の下に書く。

3) 図は、著者が作成する。図の描き方については、5.を参照する。トレースおよび製版を要する図を希望する場合は、別途実費を支払うものとする。

4) 写真は、印画紙に鮮明に焼き付けたものに限る。その他は、図の場合に準じて扱い、番号も図と分けずに通し番号とする。

5) 特殊な印刷 (アート紙使用, カラー印刷, カラー写真など) を希望する場合は、著者は別途費用を支払うものとする。

(2) 表

1) 表は、1 つずつ別の用紙 (A4 判) に書く。

2) 表番号は、原稿全体を通しての番号とし、表-1, 表-2 (英文では Table 1, Table 2) のように書く。また、表番号、表題、説明文は、その表の上に書く。

3) 表は、折込みとなるような大きさのものは避ける。

2.7 その他

(1) 図・表などの英文

論文、技術報告では、図・写真・表の表題、説明文は英文とすることが望ましい。

(2) 参考文献

参考文献は、本文の終わりにまとめて次の例に従って記載する。なお、原則として文献の著者全員の氏名を記載する。

・雑誌の場合

引用番号) 著者氏名 : 表題, 雑誌名, 巻号, pp. 開始頁-終了頁 (発行年)

例)

- 1) 橋秀樹, 岩瀬昭雄, 石井聖光: 乗用車および大型車の定常走行音・パワーレベル, 騒音制御, vol. 6, no. 5, pp. 18-23 (1982).
- 2) S. Omata, S. Morita: Horizontal contact resonances pickup with rectangular bases on soil surfaces, J.A.S.A., vol. 68, no. 2, pp. 393-403 (1980).

・書籍の場合

引用番号) 著者氏名: 表題 (出版社, 所在地, 発行年), p. 引用頁.

例)

- 1) 五十嵐寿一編: 音響と振動 (共立出版, 東京都, 1981), p. 221.
- 2) M. J. Crocker, A. J. Price: Noise and noise control, vol. 1 (CRC PRESS Inc., Ohio, 1975), p. 223.

(3) 単位

単位は, 原則として SI 単位による。使用にあたっては, JIS Z 8202-0 (量及び単位—第 0 部: 一般原則) に従う。

注 1) JIS Z 8202-0 では, 「量の特別な性質又は関与した測定状況に関する情報を示す手段として, 単位記号にどんな修飾記号であれ付加することは正しくない。」と規定し, 例として, 「 $U_{max} = 500 \text{ V}$ ($U = 500 \text{ V}_{max}$ とはしない)」と示されている。よって, dBA などの単位記号は用いない。

注 2) 数値と単位の間にはスペースを入れる。

(4) 文字, 活字, 図表挿入位置

- 1) ドイツ文字, 花文字などは使用を避ける。
- 2) 小数点はピリオド (.) とし, カンマ (,) は用いない。
- 3) 変数及び量記号はイタリックとする。
- 4) 図・写真・表の挿入位置を余白に記入する。また, 原稿に通し頁を記入する。

3. 版下の刷上り頁数の換算方法

版下の刷上り 1 頁は, 和文の場合, 1 行 23 字 (約 7 cm), 46 行 (約 22 cm) の 2 段仕上がりになる。英文の場合, 約 65 ストローク 69 行が 1 頁に相当する。

版下に占める頁数は, 以下の目安を参考にして, 原稿を作成する。

- (1) 題名, 著者名, 所属
約 1/4 頁に相当。
- (2) 和文要旨, 英文要旨, キーワード
最大で 1/2 頁に相当。

(3) 図・写真・表

図・写真・表のスペースを版下の頁数に換算するための目安を下表に示す。

表 2 版下の刷り上がり頁数の換算(目安)

図・写真・表の刷上りの大きさ (方段)	版下頁数換算	版下行数換算
7.0×5.5 cm	1/8 頁	12 行
7.0×8.0 cm	3/16 頁	17 行
7.0×11.0 cm	1/4 頁	23 行
7.0×16.0 cm	3/8 頁	35 行
7.0×22.0 cm	1/2 頁	46 行

なお, 上記の刷上りの大きさには, 図・写真・表の説明文が含まれる。

4. 他の出版物からの引用

図・写真・表を他の出版物から引用する場合, 出典を必ず明記し, 必要に応じて原著者および出版社の

了承を得る。

5. 図を作成する際の注意点

- (1) 図の大きさは、予想される刷上りの約 1.25 倍～1.5 倍が望ましい。刷り上がり時の図の幅は、7 cm または 15 cm 以下になる。
- (2) 線の太さは、細線（座標軸の目盛り、引き出し線など）、中線（座標軸など）、太線（グラフ曲線など）の 3 種類程度とするときれいに見える。
- (3) 図中文字
 - 1) 図中の文字は、8～9 ポイントとし、変数はイタリックにする（2.4 の(2)数式の項参照）。
 - 2) グラフの縦軸の説明は、軸方向に沿って横書きとする。英文は、頭文字を大文字とし、以下小文字で通すことが望ましい。
 - 3)

6. 「論文・技術報告執筆用テンプレート」の利用

投稿者の執筆作業を容易にし、かつ頁数を把握し易くすることを目的に「論文・技術報告執筆用テンプレート」が用意されている。このテンプレートを利用して原稿を作成してもよい。テンプレートは、以下からダウンロード可能である。

http://www.ince-j.or.jp/05/05_page/kaishi/論文・技術報告執筆用テンプレート.doc

なお、このテンプレートを利用すれば、版下とほぼ同様の体裁で作成可能である。ただし、頁数はあくまでも目安であり、版下と完全に一致するとは限らない。

附則（平成 27 年 1 月 28 日第 20 期理事会）

この規則は平成 27 年 1 月 28 日から施行する。